

信州デジくら

□ 長野県デジタルアーカイブ基本構想

構想の期間：平成20年度～平成29年度

基本方針：『地域アイデンティティの再認識と地域づくり』

□ 長野県デジタルアーカイブ推進計画

計画の期間：平成20年度～平成24年度

めざす姿：『貯めるだけではなく、使えるデジタルアーカイブの構築』

1 事業概要

【趣旨】長野県は、豊かな自然とそれに育まれた文化、歴史等、多くの社会的資産に恵まれており、これらを次世代に継承するため、記録・保存（アーカイブ）する必要がある。県内の情報基盤を活用しながら、社会的資産をデジタル化して保存・活用することにより、長野県の持つ地域力を様々な分野で開発し、地域アイデンティティの再認識と地域づくりを行う。

県の責務

行政としての説明責任

課題

失われゆく社会的資産の保存

百年後を見据えて

【対象】

-分野-
祭り、習俗、
伝統工芸、伝
統芸能、自
然、歴史的建
造物、景観、
信仰、芸術、
行政、統計等

-媒体-
古文書、絵地
図、書籍、写
真、映像フィ
ルム、語り、
音楽、現物等

長野県デジタルアーカイブの構築

基本方針

『地域アイデンティティの再認識と地域づくり』



【発信方法】

-インターネット-
誰もが自由に
活用できる総
合検索システ
ムの構築
数多くの画像
とともに広く
世界に向けて
発信

-DVD-
テーマを設定
した制作を検
討

効果

- 文化の伝承(社会的資産の保存)、地域アイデンティティの再認識
- 人材育成、新たなビジネスモデルの創出、文化の創造
- 長野県の知名度アップ、観光の振興

2 長野県デジタルアーカイブの特長

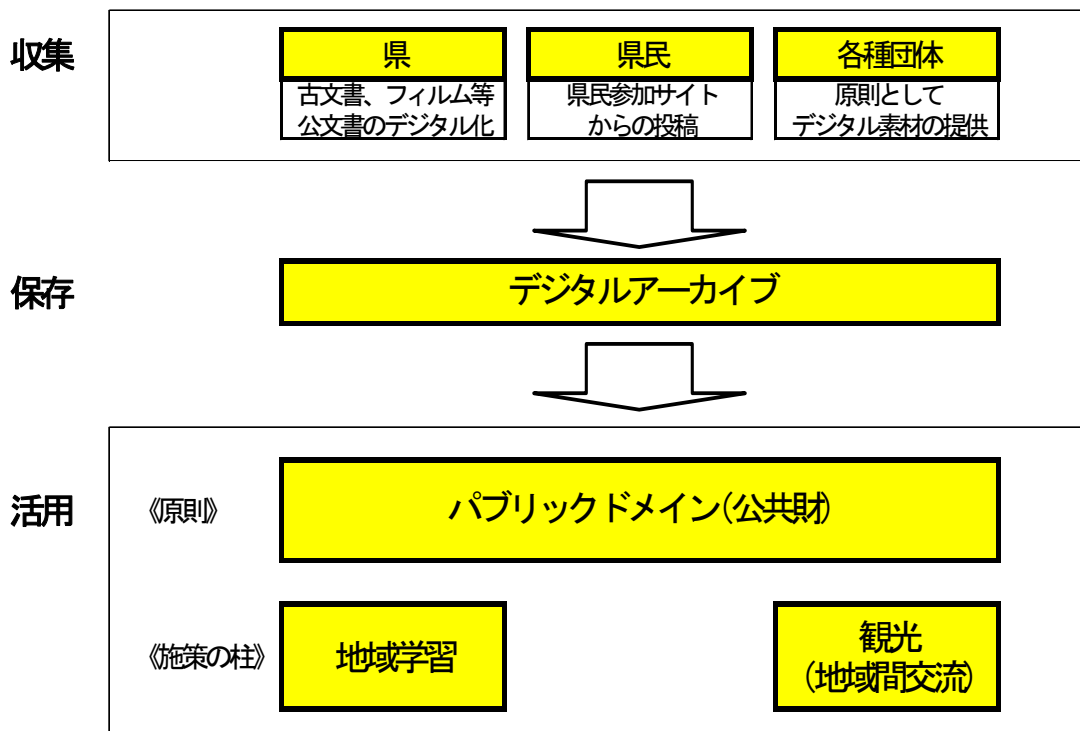
～県民自らが地域の魅力を再発見～

- 県民参加で情報を広く蓄積
- 地域の物語を引き出す
- 次世代に継承すべき価値を共有

3 事業推進における基本的な考え方

～県の責務と県民参加～

- 住民自治の大前提として、公文書を収集・保存・活用
- 県がコーディネーターとして、県内に存在する社会的資産を幅広く収集・保存・活用



4 素材収集における方針

～年度ごとに重点テーマを設定～

- 平成 20 年度…「食」
- 平成 21 年度以降の予定…「祭り」「手仕事」「遊び」「里山風景」

【愛称『信州デジくら』に込めた意味】

長野県に存在する歴史・文化・自然等の貴重な社会的資産をデジタルにして保存する**蔵**。大切に守り伝えられてきたものや**暮らし**そのものを、生きた形で次世代へ伝えていくという意味も込めている。